



直径約3mの天体観測ドームは、上部のみが既製品。軽井沢の建物規制を考慮して下部をデザインした結果、このようにシンボリックな形に。

天体観測ドームは宙に浮くように設置

## Case2

矢板久明さん+矢板直子さん設計の「Villa Stella」の場合

Request【要望】 ← 住み手・Kさん

**R** 終の住まいで暮らしながら天体観測を楽しみたい

Solution【回答】 ← 建築家・矢板さん

**S** 天体観測ドームと住居をアウトドアリビングでつなぐ

keyword

# STARS



日本有数の別荘地である軽井沢にセカンドハウスではなく、永く定住するための住まいをつくる。唯一無二の希望は、そこに天体観測ドームを設置すること。家づくりにおいて、住み手の希望がそのまま建築家の課題となりうることも多いという例にもれず、この「Villa Stella」の設計においても、天体観測ドームの存在が、設計プランの最大の鍵となった。

依頼を受けた建築家の矢板さんは、生活空間とドームのバランス、ドームに組み込まれる天体望遠鏡の機能なども考慮した結果、分棟型を採用。ただし趣味と暮らしが切り離されることがないように、アウトドアリビングを設置することになった。

有効に機能しているという。さらに白で統一した外観やキノコ型の特徴的なドームも、すべて必然性を考慮した結果から導き出されたもの。たとえば内外の塗装は、温度差があってもならない天体望遠鏡の特性上、熱がこもりにくい白で揃えた。敷地の法定要件から生まれた切妻屋根の母屋、キノコ型のドーム。そして湿気対策と強度を高めるための「下見張り」など、素材選びから仕上げに至るまで、さまざまな「用の美」が、端正な住まいをつくり出した。



1 LDKは、あえてコンパクトな空間にして、ゲストとのコミュニケーションがとりやすくなるよう配慮した。ドアの先にアウトドアリビング、天体観測ドームがある。2 すぐ脇に深谷がある傾斜地。その地形を利用した宙に浮いたような軽やかなフォルムが実現した。3 LDKと開口部を介してひと続きにできるアウトドアリビング。涼風の通り道でもある。

DATA  
Villa Stella  
設計/矢板建築設計研究所  
矢板久明+矢板直子  
敷地面積/1316.10㎡  
延床面積/90.57㎡  
家族構成/1人  
所在地/長野県北佐久郡軽井沢町  
用途地域/第1種低層住居専用地域  
構造/木造  
撮影/小川重雄 矢板建築設計研究所(写真3)  
ML217号掲載



### 《夢をかなえるには?》

「大学の研究者でプロの技術者でもあるKさんは、星や音楽を愛する多彩な趣味人。でもそのこだわりを決して私たちに押しつけることはなく、常にフラットな状態で楽しく打ち合わせができました。いざというときには決断力も早く、非常にご理解があった。理想の住まいづくりは、自分1人で答えやゴールを決めつけず、設計者とのコラボレーションを楽しんでくださるKさんのような方が成功しやすいと思います」(矢板さん)。

from architect